



□編者の旅行、文部省展覽會評等のため本號は發行日を遅延致候あしからず

□口繪『海岸』は臺灣の景にして、原畫の大きさは小判ワットマン四ツ切に御座候

□『鯨澤の秋』は、藍色が勝ち黄が不足のため原畫の面影を失ひ候、大きさは八寸に一尺二寸大にして十一月中旬の寫生に御座候

□『温泉場』は十六切大のスケッチに御座候同しく製版不出來

□次號は臨刊増刊にして、原色版は『白峯山麓』『落葉松』『柳』『西山峙より見たる朝の富士』の四枚にして、木版及寫眞版の小畫數葉挿入致さるべく候

□臨時號の記事は『白峯山麓の秋』及『春鳥畫談』に御座候

□臨時號は本月二十日より二十五日迄の間に發行致すべく、定價は普通號と同様にて他に郵税二錢を要し候前金に拂込濟の方は他日御送金の序でよろしく候

□十二月號は、原色版に磯部忠一氏の『初

冬』相田寅彦氏の『靜物畫』他に一葉を挿

入すべく、記事には石川氏の『人は人、自分は自分』、鶴澤氏の『ターナーの水彩畫』

大下氏の『靜物寫生の話』『春鳥畫談』『文部省美術展覽會の水彩畫所感』、シシウ生の『パレット物語』等掲載致すべく候

□來年一月、冬期休を利用し、短期水彩畫講習會の企有之候。時は一月三日より

七日迄五日間、場處は駿河清水若くは静岡附近、講師は大下氏に候、此地方は冬

にても暖かなれば朝より寫生するに最もよろしく候間、終日郊外寫生、雨天靜物

寫生、夜間二時間宛水彩畫講話を試むる筈にて、五日間にも十日間の講習と同

様の効果を收むべき筈に候、規定は臨時號及十二月號に發表すべく候間、奮つて

御參會希望致候

□日本水彩畫會横濱支部の第一回展覽會は十月十六、十七兩日開會、豫想外の盛況にて幹事は大喜ひに候

□石川欽一郎氏を講師として水彩畫を研究しつゝある、臺灣總督府中學校寫生班

の第一回展覽會は、同校圖書教室に於て

十月八日九日兩日開會、出品者は糸崎固

一、岩淵和男、岩瀬義男、馬場勝次、原口誠吾、富永親徳、戸田要三、渡邊剛、

鎌野誠一、吉澤初藏、加藤司、續涉、魚返哲、井衛十郎、小山暲、古屋巖、黄葉

收、蓑田不二夫、鹽田哲夫諸氏にして點數七十二の多きに達し、盛會なりし由に

候

□名古屋愛山會にては、十月二十一日より二十三日迄山岳に關する西洋畫及日本畫の展覽會を催せし赴に候

問に答ふ

■一 初學者の寫生は細部に目がついて

大體の調子と色彩を描くこと困難なり、其弊を脱する法を知りたし

二 應募の文章繪畫は會友の作にても優秀なるものにあらずれば掲載なきや、又は會友なら優

劣によらず賞與を受くるにや(常陸開度生)◎一 繪畫の基礎たる墨繪から學ん

でゆけば早く大體の感じを取ることが出来る、墨繪で形の研究が出来て濃淡の調

子か分り、後ちに彩色をするのであると、

何の苦もなく感じを出すやうになれるが、それ等の素養の無い時は、一枚繪をかくのにも、形にも苦しみ、物のマル味や深味を出すことにも苦しみ、其上色彩にも苦むといふ譯で、順序を踏んで稽古する人が、一つ一つ苦しんで覚えてゆくのを、それ等の素養のない人は、一度に三つの苦しみをやるから、それで徒らに細かい部分にのみ心配して大タイを忘れるのである**二** 寄稿には會友と否との區別なし、又水彩畫の賞は有益と思ふ文章及登載された繪畫のうち出來のよいものに差上る定なり**■**中學卒業後美術學校に入らず、洋畫研究所にて修業の希望なれど、只研究所のみにては、處世上仕方なきや(茨城一中學生)◎美術學校を出て教師にでもならうといふのなら知らぬこと、畫家として立つには、學校や教師に大なる關係はない、其人の才分と勉強とで、青年にして大家ともなれやう、老年迄も終に世に知られずに了らう、美術家としては、美術學校の出身者と、私立研究所、又は私塾の出身者等社會上何等の

軒輕なし**■**一 初號よりの愛讀者なるが大下先生に自己水彩畫の批評を願はれまじきや**二** 仕上げし水彩畫にニス、アラピヤゴム等を塗りて畫面に光澤を出すの利害**三** 仕上げし水彩畫にエローオークルを塗る場合、及其可否(海月)◎**一** 會友となつて戴きたし **二** 物の感じを出す上に於ては如何なる手段をとつても差支は無いが、なるべくはかゝる技巧を避けた方がよし**三** 空など時として畫いたあとで淡く重潤する場合あり、併しこれはエローオーカーに限つた譯でなし**四** の榕村主人は鶴澤四丁氏、他はお答出來ぬ、序に前號「いやになつたらいつ廢刊する」云々について御氣遣のやうだが、讀者からあまりヤカマシイことを言はれ、吾々の意を解さぬ人が多いやうなら廢刊しないとも限らぬが、然らざる限りは、吾々の精力の盡く間は永續する譯故御懸念なく御愛讀を請ふ**■**一 一色畫の方法**二** 西洋畫家の傳記ありや**三** 一色畫に使ふ繪具の名及價值**四** 美術書籍及雜誌の發行所(東京畫狂生)◎**一** 只今

靜物寫生の話をしてゐる、一色畫のことは『みづゑ』六十五、六十六及本號にある、**三**の答もこれによつて見られたし、但繪具の價は一個五錢より以上**二** 小石川精美堂發行にて橋本春郊氏の譯されしものあり、書名定價不詳**四** 外國出版のものは丸善書店にあり、邦文にては本郷湯島切通坂畫報社に種々出版物あり**■**一 みづゑ六十六『しげ』の湖水の色の名**二** 前々號廣告佛國上等繪具は使用に耐ふるや**三** 河の寫生に下流を寫しても上流に向つたやうになつてしまふ目や水平線の加減にや(文影生)◎**一** 『みづゑ』六十七問答欄を見たまへ**二** まだ現物を見ぬ故お答出來ぬ**三** 困難なる技術の一つなり、岩でもあつて急な流れなら趣を現はし得べし、緩流にては凡手のよくすべき限りでない、かゝる場合向ふに流れてゆく感想を出さなくともよいが、強てそれを現はしたいとなら、舟の位置、杭などの流れを遮る場合の描寫を正しくして出すより他に途はない**■**一 初學者の風景寫生に用ゆるワットマン紙の粗密**二** 諸先生

が作畫に價を附せられる標準**三** マットの色及紙質は如何なるものがよきや、また直ちに糊貼にしてよきや(小美術家)◎
一 其畫くべき場處の感じによつて紙も選ばねばならぬが、別に粗目とも何とも記號のない普通のワットマンがドンな場合にも用ひられて初學の人によからう。

二 繪の良否**三** マットの色も其繪によつて一様では無いが、マットは背景と同様に目立たぬものがよい、金と白が一番無事、鼠なら鈍い色がよい、そして厚い方がよく、直ちに貼付るよりも、繪の出る處だけ斜に面をとつて切抜た方がよい
■ **一** 研究所にては實物と模寫と兩方ありや**二** 木炭で靜物の稽古も出來ますか**三** カッサン、ホスタ以外に高尚な鉛筆畫臨本ありや(T S 生)◎ **一** 初學の人に、一、二回模寫をさせて、後は實物寫生**二** 出來る**三** 日本に來てゐる者では他に無い
■ **一** 毎日午前半日丈の勉強で、通常の人と大差なく進歩すべきや**二** 普通の進歩で文部省の展覽會に出品が出来る位になるには何年程を要すべきや**三** 太

平洋畫會研究所の教授方法**四** 美術學校

入學は私立中學の卒業生でもよきや(自然兒)◎ **一** 普通は午前研究所で勉強、午後から戶外寫生をやつてゐるから、半日なら他人より遅れる筈なり、併しそんな事を考へないで、自分は半日でも二時間でも、人に遅れない丈け一生懸命にやるといふ覺悟の方が大切なり、現に水彩畫會研究所には、僅かに朝一時間(それも人より早く起きて)の寫生と夜分研究所の稽古とで、まだ初めてから四年程であるのに、去年も今年も文部省展覽會に及第した人がある**二** 五六年以上**三** 他の研究所と異りなし初めは、午前墨繪、一ヶ月一週午後コスチューム、教師は一週二回見巡りに來る**四** 文部省認可の學校なら差支なし
■ **一** チューヴ入繪具柔かにして流れて困る、固くする法**二** 日本水彩畫會と春鳥會との關係 **三** 冬期休課に研究所又は講習會へ出る道なきや**四** 木炭畫に指を使用してよきや**五** 近頃の原色版は黒味勝のやうに思ふが如何
(綠)◎ **一** 舶來品には、輸送の途中固く

なるを恐れて、殊更に柔らかに製せしものあり、別に固くする手段なし、少し宛出して使ふのみ**二** 春鳥會は雜誌の發行を主とし、日本水彩畫會は専門とアマチニアとを問はず技術の教育を爲すために出來たもので、幹部は無論同人の手になつてゐる**三** 冬期は何處の研究所でも休みなり、又個人としても旅行等て教へてくれる處は無い、來春は東海道清水若しくは静岡附近で、短期講習がある筈故出席せられよ**四** 差支なし、但脂あぶらつ手は困る**五** 近頃の二三枚、特に六十七の『庭の隅』は非常に藍が勝つたが、他は全體として進歩しゐる
■ **一** 染料用色素中紅梅色のフロキミン、黄色のオーラミン等は、グリセリン及びアラビヤゴム末等と練合して水彩畫用としては如何**二** 遠近を不論ホワイト混合用法**三** 近景の松の葉の塊團は、概畧的筆太に、又分離せし葉の稀なる處は一本宛畫いてよいか(湯淺生)◎ **一** 染料のことは知らぬが、水彩畫の着色はあまりに華々しきを忌むし、また普通染料は洗つてもとれぬもの故注

意を要する二 遠くほんやりした場合、又は極々輝いて晴れた空の中、草原の日光を受けて光つた處の不透明な場合、或は草原などの中に光つた葉等三 大タイそれでもよいと思ふ、描法はどうてもよし、併しいかにマバラな處でも、一本々々畫くには及ぶまい。

讀者の領分

■水彩畫と額縁との關係につき御講話を望む、次に靜物畫の原色版も拜見したし(浪月生)◎前者は來年初めに屹度、後者は相田寅彦氏の作を多分來月號に入れませぬ■多忙な身の上になりましたから畫はがき交換は當分御斷り申上ます(松岡友次郎)■靜陵の地、駿府は城跡あり、淺間の古社あり、畫題多く、圍らずに山岳を以てし、大河西に流れ、海に近く、大崩、三保等富士を背景としての景勝の地多し、東海道の松並木も又研究の材ならん、同好の諸兄姉、一度來りなば歸るを忘るゝならん、快なる哉島崎氏等の催、來り而して講習會の人となりたまへ(靜岡

の片田舎より)■畫道に御熱心な讀者諸君どしどし肉筆繪端書の交換を望む、(山口縣山口町古熊村井勝藏)■『舞子の濱』は原色版で拜見したかつた。○肉筆繪端書交換を願ふ(長野縣北佐久郡布施村土屋卯三郎)■山陰松江地方の誌友よ、水繪に關する會あらば發表してくれ。○諸先生の苦心の名作を自ら不満足と云われる數枚の原色版より、偶に一枚でよいかから完全にした版が欲しい。六七號『午後四時』は、私が過去一年間の浪人時代によく通つた所、殊更妙味を感じ得た(縁)■『みづゑ』の原色版の三枚になつたのは喜ばしい、もつと多くなつたら猶よからう、せめては五枚位宛○石版も結構、價の高くなるのば苦しくない(於て)■研究所は僕にとつては愉快な處だ、希望ある處だ、研究所は僕にとつてのバラダイスなんだ(コスモス)■寫生の好時節到來、同好の諸兄と肉筆水彩畫交換—眞面目の—希望、但ハガキ大以上のもなれば此上なし、返葉は確實(青森縣三石郡八石賣市南部方、江渡直一郎)■諸先生方の肖像

を各月號にのせて下さい(小美術家)■横濱支部の水彩畫展覽會を見た、皆サンの御進歩は驚嘆すべきもんだ、雜風景な横濱にコンナ立派な會の開かれたのは、實に嬉しい、何卒コレを機として春秋二期位ひ成績品を一般に見せて頂きたい(横濱の小僧)■文部省展覽會に我が日本水彩畫會の學生諸君の出品が澤山あるのは眞に嬉しい、來年は一層澤山拜見したい○三宅先生は油繪をやるといふお話だが、今度も水繪を拜見した、何卒油繪なんかやらずに下さい(本郷一紅)■自筆ハガキ交換希望、即時返葉(鹿兒島市東千石町五十六中島重治)■余も大谷村の島崎兄の言に大賛成をする。同感の諸兄姉どしどし誌上に名を出されよ。又『みづゑ』讀者諸兄姉の眞面目なる肉筆繪葉書交換を望む(駿河安倍郡千代田村杵谷深澤信)

* * * *

